

## 事業再評価シート

事業名	河川事業（広域河川改修事業）		
箇所名	二級河川広渡川水系戸高川	市町村名	日南市

（上段は前回再評価、下段は今回再評価）

実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単		
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度
	S58	H20 H25	H30 H41
事業進捗	全体事業費 （百万円）	既設投資額 （百万円）	進捗率（%）
	9,300	3,529	事業費 37.9 用地 49.8
	9,300	3,567	38.4 50.8
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C) 対応方針原案
	再評価後5年経過		3.96 継続
	再評価後5年経過		4.72 継続

## 全体計画

戸高川では、河道が狭く、流下能力が不足しているため、度々浸水被害が発生している。そのため、概ね10年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを整備目標に、酒谷川合流点から4.0km区間について、昭和58年度から河川改修事業に着手している。

事業計画として、下流から、河道掘削、護岸整備、橋梁架け替えによる整備を実施している。

また、平成3年度から平成8年度の6ヶ年で救急内水対策事業を採択し排水機場の整備を実施したほか、上流部でも早期に浸水被害の解消を図るため、酒谷川への放水路を整備し、流域分割による改修を実施している。

※ 広渡川水系河川整備基本方針：平成13年7月19日策定  
 広渡川水系河川整備計画：平成14年12月16日策定

## 事業概要

概ね10年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを整備目標に、酒谷川合流点から4.0km区間について、主に河道掘削、護岸整備、橋梁架け替えによる整備を実施し、流下能力を向上させ、浸水被害の軽減効果を図る。

改修延長 L = 4.0 km  
 総事業費 9,300 百万円  
 計画規模 56m<sup>3</sup>/s 酒谷川合流点（計画洪水規模：1/10）  
 事業内容 河道掘削、護岸整備、橋梁架け替え等

## 事業目的

## ○対象事業の目的、必要性

戸高川では、河道が狭く、流下能力が不足しているため、度々浸水被害が発生している。流域内には人家や事業所などの資産が集中しており、浸水被害による損害が大きいことから、流域住民からも早期改修の強い要望がある。

## ○計画での位置付け

広渡川河川整備計画が平成14年12月16日に策定されている。

## ○事業を継続する必要性

戸高川放水路、及び戸高川下流区間については、一定の流下能力が確保されているものの、中・上流区間については依然として流下能力が低い箇所があることから、河川改修を引き続き実施する必要がある。

### 事業の進捗状況

#### ○現在の事業進捗、整備効果の発現状況

平成20年度までに、酒谷川合流点から市道橋までの600m区間、及び放水路660mの整備によって、流下能力の向上が図られた。

その後、平成24年度までは、用地買収が困難な箇所について、地権者との交渉が長期化したため、河川改修を進めることが困難な状況であった。

しかし、平成25年8月に用地問題が解消したため、現在は、洪水の流下を妨げている市道橋の架け替えに向けた準備を実施している。

#### ○今後の事業進捗の見込み

今後は、来年度より、市道橋の架け替えに着手する。

また、上流に向けて、河道掘削や護岸による整備を推進していく。

### 社会情勢等の変化

#### ○事業を取り巻く社会情勢等の変化

戸高川周辺は住宅街となっており資産が集中している。また、戸高川下流部に王子製紙(株)日南工場が隣接しており、浸水被害が発生した場合には甚大な被害が想定される。

#### ○災害等の発生状況

昭和46年8月(台風19号) 床下浸水8戸、浸水面積0.1ha

昭和47年6～7月(豪雨) 床上浸水2戸、床下浸水63戸、浸水面積2ha

平成 2年9月(台風19号) 床上浸水3戸、床下浸水86戸、浸水面積16ha

平成 2年9月(台風20号) 床上浸水55戸、床下浸水114戸、浸水面積42ha

平成 9年9月(台風19号) 床上浸水3戸、床下浸水82戸、浸水面積6.6ha

平成16年8月(台風16号) 床上浸水1戸、床下浸水1戸、浸水面積3.9ha

平成17年9月(台風14号) 床上浸水1戸、床下浸水19戸、浸水面積0.1ha

#### ○環境保全に対する取り組み

戸高川では、現在平坦化している河床に対し、護岸工や掘削の際に部分的に置石等を配置することで、みお筋を確保し、多様性のある水際の保全・創出に努めている。

### 事業効果の分析

#### ○費用対効果

費用対効果(B/C)は、4.72である。

#### ○事業を継続することの事業効果分析

事業継続により、流下能力が低い箇所の解消を進めることで、洪水被害を軽減し、安全で安心して暮らせる社会づくりが推進される。

### コスト縮減

放水路整備による流域分割方法をとることで、既設護岸を活かした河川改修の実施が可能となり、工事費の低減や用地買収範囲の縮小によるコスト縮減が図られている。

### 代替案の可能性

戸高川では、放水路による流域分割によって治水安全度の向上を図っており、既に放水路整備が完成し、流域分割機能を発揮している。

代替案として、遊水池の設置等が考えられるが、人家や事業所等が集中しており、用地補償費の増加によるコストの増加を招くため、現況案が最も適した案である。

### 対応方針

継続

# 位置図（管内図）

